

令和２年度 第１回長野市総合教育会議（拡大版） 議事録（要旨）

１ 日 時 令和２年１０月７日（水） 午後３時３０分～午後５時

２ 会 場 長野市役所第一庁舎５階 庁議室

３ 次 第

（１）開会

（２）あいさつ

（３）協議事項

①新型コロナウイルス感染症に伴う学びと体力の保障について

（４）報告事項

①第三次長野市教育振興基本計画の策定について

②市内小・中学校の複式学級の状況について

③児童虐待防止に向けた相談体制の強化について

（５）閉会

４ 出席者

○加藤久雄市長

○長野市教育委員会

近藤守教育長、坂口昌夫教育長職務代理者、倉石和明委員、塚田まゆり委員、
茅野理恵委員

加藤二佐雄 元日本ＰＴＡ全国協議会副会長、鷲澤幸一 長野商工会議所教育問題特
別委員長、小林正和 長野市ＰＴＡ連合会顧問、高橋桂子 長野市ＰＴＡ連合会参与

○オブザーバー

樋口博副市長

○職員

酒井企画政策部長、樋口教育次長、永井教育次長、中澤保健福祉部長、広田
こども未来部長、小林文化スポーツ振興部長、島田秘書課長、藤澤教育委員会
事務局総務課長ほか関係する市長部局及び教育委員会事務局の職員

５ 会議要旨

（１）開会 進行：酒井企画政策部長

（２）あいさつ

【加藤市長】

・第１回の拡大版総合教育会議に御出席いただき、お礼申し上げます。

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う安倍前首相からの臨時休業の要請や国緊急事態宣言の発令により、県立高校を含めて影響を受けた。本市においても、3月から5月にかけて、2回にわたり、市立小・中学校、高校を休業とした。
- ・子どもたちには、学力の問題だけでなく、心身ともに大変な負担があった。心身ともに大切な時期であるため、学力の回復、またコミュニケーションの機会の確保など、子ども達に望ましい教育のあり方を目指して対応してきた。
- ・本日の会議においては、「新型コロナウイルス感染症に伴う学びと体力の保障について」、御協議をいただきたい。
- ・学びの保障については、ICTの活用などによる子ども達一人一人に寄り添った学びの提供など、新たな教育を展開するチャンスになるのではないかと考えている。
- ・また、体力をつけ、免疫を高めることは、感染予防の基本であり、子どもたちの将来の充実した人生につながる。コロナ禍で外出の機会が減っている今こそ、体を動かすことの楽しさ、心地良さを子どもたちに伝えたい。
- ・コロナ禍により、様々なイベント、行事、懇親会、会議等が中止になっているが、本市では、コロナを軽視せず、過度に恐れずに、正しい予防をして、全てのイベントを開催する方針である。ぜひ皆様方にも趣旨を御理解いただきたい。
- ・本日の会議においては、「第三次長野市教育振興基本計画の策定について」なども、併せて御報告をさせていただく。
- ・皆様それぞれの忌憚のない御意見をお願いしたい。

【近藤教育長】

- ・拡大版の総合教育会議を開いていただき、感謝申し上げます。
- ・加藤市長には日頃から長野市の教育の充実・発展に御理解をいただいている。特に今回の新型コロナウイルスの対応については、格別に御配慮いただいたことに対し、この場をお借りしてお礼申し上げます。
- ・本日の会議では「新型コロナウイルス感染症に伴う学びと体力の保障について」をテーマに御協議いただいて、今後の長野市教育の進むべき方向性について、御理解、また御示唆をいただければ、大変ありがたい。
- ・今回のコロナ禍において、学校を臨時休業せざるを得なかった。そうした状況の中、子ども達にとっての学校が果たす役割の大きさを改めて確認出来た。
- ・本市では臨時休業中も学校再開後も、感染拡大防止、子どもの心のケア、学びの保障の3点について具体的な取組みを進めるよう、各校に指示し、様々な取組みを行ってきている。
- ・臨時休業に入った当初から、各校には、子どもたちとのつながりが途絶えることのないよう、また再開後も子ども達のストレスを緩和するため、校外活動への支援を行うなど、常に子どもの心のケアを念頭に指導してきたつもりである。

- ・学習保障についても、自学自習の力を育むことに重点を置いて、一人一人の学びに向かう意欲や理解力などの、その程度の違いに応じた指導、学びの進捗やつまずきに寄り添った支援に取り組むよう指示してきている。
- ・今後も感染症や災害など、予測不能な出来事が起こった際には、学校とのつながりを失うことなく自学自習を行い、一人一人の可能性を伸ばすことにより、様々な社会的変化をたくましく乗り越えてゆく力のある子どもたちを育成したい。
- ・現在の第二次長野市教育振興基本計画が、来年度をもって計画期間を終えることから、今後、第三次長野市教育振興基本計画の策定を予定している。現状と課題を鑑みながら、御意見をいただきたい。
- ・本日の会議では、忌憚のない御意見をいただいて、今後の教育委員会の進むべき道を御示唆いただきたい。

(3) 協議事項

①新型コロナウイルス感染症に伴う学びと体力の保障について

- ・永井教育次長及び広田こども未来部長から、資料1及び資料2に基づき説明

【説明内容】

- 1 新型コロナウイルス感染症に伴う学びの保障について
 - (1) 新型コロナウイルス感染症への対応
 - (2) ポストコロナを見据えて①（自学自習の力の育成）
 - (3) きめ細やかな個別支援のために
 - (ア) 臨時休業中の学習内容の定着状況を把握
 - (イ) 学習指導員等の配置
 - (4) ポストコロナを見据えて②（GIGA スクール構想の推進）
- 2 新型コロナウイルス感染症に伴う体力の保障について
 - (1) コロナ禍以前の体力の保障について
 - (2) 休校中の体力向上について
 - (3) 学校再開後の体力向上について
 - (4) 今後の取組
 - (5) 保育・幼稚園課における取組～身体を動かすことが好きな子を目指して～

【意見交換】

(委員) 資料1のシート17、学習内容の定着について、資料のデータは、昨年3月までの学習内容を対象としたもので、休業の影響を十分に反映していないのではないか。今年4～6月の休業時の学力が実際にどこまで定着しているか、確認した方がよい。

(教育次長) NRTの標準学力検査は、前年度1年間の学習内容について翌年度

4月後半から6月にかけて実施し、それを夏休み頃にかけて分析するというサイクルで行っている。したがって、今年度の分析結果が出るのは、来年度となる。

(委員) 自学自習は本当に大切であり、進めてもらいたい。ただ、家庭や子どもの状況により差が出ており、慎重に対応してもらいたい。

(委員) 全員が自学自習を出来るわけではない。勉強のやり方が分からない子どももいる。学校でその点を確認しながら進めていかないと、もう1回休業になったときには、さらに格差が広がってしまうのではないかと危惧している。出来ない子どもたちをどう救っていくかが、資料からは見えてこない。

(委員) 資料は良いことしか書かれていない。課題もあるのではないか。

(教育次長) 現在各学校では、NRTの結果を見ながら、子どもたち一人一人に合わせた支援について、取り組みを進めている。

(委員) 自学自習や個別最適学習のために、学習指導員などをもっと活用すべきである。退職教員や地域の人などに、少額の謝礼で手伝ってもらうなど、力を入れていただきたい。

(委員) スライド22に「自学自習の資質・能力」という言葉が使われているが、これは単に自分の学習進度に合せたプリントを選んで取り組めるとか、宿題を自力で終えることが出来たとか、そういう狭い意味ではなく、物事に関する興味・関心の高さや、目標に向かう力、探求心、継続力、分からないという気持ちを抱えながらも取り組んでいく力など、多様なイメージがあると思われる。それを十分に議論して、先生や保護者が共有していくことが大切である。この資質・能力の意味するところを十分に共有出来ると、自学自習の資質・能力を育てるための個人差に対する支援という視点で、学習指導の中でも、自然と子どもたち個々への心理的なケア、心のケアにつながるような関わりにつながっていくのではないか。

(教育長) 休業時には時間もなく、「自学自習の資質・能力」のイメージが全ての保護者や先生と共有できなかった。今後、そのイメージを、多くの保護者や先生に分かってもらえるようにしたい。

(委員) 主体的に学ぶ力、自学自習の力を育てるのは、現在の教育の大きな流れである。コロナ対策ということではなく、別次元で、もっと大きな視点で進めるべき。

(教育長) まさに願っていることである。自学自習の力を育てることは、主体的、意欲的、対話的で深い学びが出来る子どもたちに育てていくことにつながると思っている。

- (委員) 各学校が試行錯誤してやっているが、公教育なのだから、一度課題や成果を整理して、モデルスクールを設定するなど、市として体系的に進めていくべき。今はコロナ禍で混乱しているが、コロナ禍が終わった後でしっかり態勢を整えられることが大切である。
- (委員) ただ自学自習しろといっても、やらない子どもはやらない。興味・関心や目的意識を持たせる機会を作ることが必要である。
- (委員) 何故勉強をしなければいけないのかという視点が欠けている。キャリア教育的な視点を入れていくべき。
- (委員) GIGA スクール構想が前倒しされたのは良いことである。子どもは新しい機械に興味を持ち、学習する意欲もわくのではないか。ただ、コロナ禍だからということではなく、本来必要なことだということをしっかり伝えていかないと、保護者の中には、学校の先生は子どもたちにモニターを見せて自分でやらせているだけで、教育放棄だと捉えてしまう人もいるかもしれない。
- (委員) どうやって自学自習の方向に子どもたちを向けていくか、又は一緒に向いていくか、教員の資質が重要になる。
- (教育長) 自学自習は、子ども自らが出来るようにするために、先生方がどういう指導をしていくかということである。その点で、パソコンが一人一台入ると、先生が子どもたち一人一人に接し、指導していくことが可能になる。そのような中で、まずは子どもたちの心が学びに向かう意欲を育てたい。そのためにも、体力というよりは、自分で外で遊ぶ、友達と触れ合うということが必要になると思う。
- (委員) 休業により子どもの体力低下を感じている親がいる。サーキット事業は日常的に出来ると思うが、授業間の休み時間など、日常的に体を動かせるよう、もう一工夫してもらいたい。
- (委員) 小学校1年生の親には、フルタイムで働いているなどして、休業中の家庭での学習について十分な対応ができないことで、自分を責め、悩んでいる人もいる。
- (委員) 学校に固定電話を増設したとのことだが、相談の件数と内容が知りたい。
- (教育長) 記録は取っていないが、1本では足りないくらいだったと聞いている。様々な相談があったが、丁寧な対応をしたことで、学校再開時に多くの子どもが登校できたと評価している。
- (委員) 特別活動、修学旅行とか運動会が中止されているのは仕方ないが、運動会や修学旅行は、集団行動や責務を全うすることを学ぶ場である。そのようなことを学ぶ場が年度内にほしい。

(教育次長) 運動会は、小学校 54 校中 53 校で実施し、残り 1 校は、校庭の工事など物理的な事情により開催できないということである。子どもたちは建物の中だけでは息が詰まってしまうことは先生も重々分かっており、気持ちを解放したり、体も十分使うなど、工夫しながら進めている。

(委員) コロナ禍の前は盛んにアクティブラーニングということが言われていたが、コロナ禍により対話が難しくなり、誰も言わなくなった。アクティブラーニングは、ただ会話すれば良いというものではない。自学自習は、言い方を変えれば一人アクティブラーニングであると思う。

(教育長) そのような点について、どのように子どもを育てていくのかという教育課程そのものについての研究会を、先生だけでなく、保護者の皆さんとも行っていく場が必要になってくると考えている。今後よろしくお願いしたい。

(4) 報告事項（一括説明）

①第三次長野市教育振興基本計画の策定について

・樋口教育次長から、資料 3 に基づき説明

【説明内容】

- 1 第三次長野市教育振興基本計画の策定について
- 2 教育等の「大綱」について
- 3 長野市における「大綱」について

②複式学級編成による授業実施に向けた取組について

・永井教育次長から、資料 4 に基づき説明

【説明内容】

- 1 複式学級とは
- 2 長野市における複式学級の状況
- 3 複式学級編成による授業実施に向けた取組

③児童虐待防止に向けた相談体制の強化について

・広田こども未来部長から、資料 5 に基づき説明

【意見交換】

(委員) 複式学級に関して、長野市はこれまで市費を入れて各学年毎に授業をやってきた。複式に備えるためには、今までは双方向で良かったものが、学年が 2 つ・3 つとあると、今度は 3 方向など色々な方向とのやり取りになるので、教員には卓越した能力が要求される。その辺の人材育成も含めて、きちんと対応してほしい。

(委員) 活力ある学校づくり検討委員会でも色々な答申が出ているが、集団生活の中で色々なことを学んでいくのも大事である。適正人数の在り方、例えば学校の統合なども並行して真剣に考えなければならないので、問題提起させていただく。

(委員) 今回複式学級になるのは、大岡小以外では何校あるか。

(教育次長) 小学校が4校、中学校が2校、小・中併設校が1校の予定である。

(委員) 統廃合をする前に、ICTを活用しながら、隣の小学校と交流事業をするなどの研究もしてほしい。

(教育次長) 本市では、連携推進ディレクターを配置しており、山間地の学校では、3校でICTを使って学年会をやるなど、数年前から取り組んでいることはある。

【加藤市長（まとめ）】

- ・コロナ禍においてどうやって子どもたちの学力、体力を維持していくかという中で、学校もそれぞれ大変な努力をしており、「なべっ子学習タイム」など各学校で工夫しているというのも、非常に素晴らしいことだと思う。
- ・皆様からは、家庭環境や本人の資質を含めて、個人格差が出るのではないかという御指摘も頂いた。
- ・コロナ禍を機に、チャンスと捉えて一気に進めること、また反省しなければならないこともある。コロナ禍が逆境にならないよう、また、一番大切なコミュニケーション力が落ちないように、今日頂いた貴重な御意見を生かして、教育長を中心に進めていきたい。